

2018. 10. 26.

海事研究協議会

研究分科会「海事社会に着目した課題」中間報告

リーダー：篠原正人

2018 年度研究課題：「わが国海運を支える海技のあり方と制度改革」

第 5 回会合報告

開催日：2018 年 10 月 3 日（水）

1. 今後の日本の海運にとって必要な海技とは

イ) 問いかけ

船員及び船舶管理者としての日本人海技者を増やすことは困難であり、且つ業界も望んでいない。すなわち、船員は将来とも**外国人と新技術に依存**していくことになる。

(意見)

- * 有事（必ずしも戦争ではない）の際に日本人船員は絶対必要。
- * 「国策論」は根強い一方、それはもう終わったとの反論も。
- * 航海命令を発することができる船舶・日本人船員を 45 隻、5,500 人という目標を国で定めたが、実現の可能性は低いという認識。

ロ) 問いかけ

船員のレベル向上に貢献する「**指導者**」が、日本の**経験値・暗黙知**を活用することが必要。

課題) * どのような指導をするか。

* 言語は。

* 人材はいるか。

(意見)

- * 後輩を育てるということ自体が日本的である。
- * 先進海運国の中で日本人船員が特に優秀という認識を持つ必要はない。
- * 日本の海技が得意としてきた点を維持し、日本人若手船員、後進海運国の海技者に伝承する方法を見出す必要がある。
- * OJT の中で暗黙知が生まれ、それが仕事の中で応用されるという構図が確立した。
- * 船員としてだけではなく、幅広い経験を積んだ結果、良い仕事ができるようになった。
- * 水先人の育成にも同様の考え方が必要。
- * 以心伝心は「部下への甘え」とも言える。もっと明示的に指導する必要がある。
- * 具体案は発言無かった。

ハ) 問いかけ

海技を使った**陸上（及び水際）の高度な業務**に、日本が培ってきた経験知・暗黙知が必要である。

例) * 造船・舶用機器の技術レベル向上

* 新海上輸送システムの構築

* 海上安全業務の指導者として（含 水先人）

* 国家プロジェクトの担い手として（例：海洋開発）

(意見)

- * ISM コードをマニュアルに落とし込む際に、日本の大手船社は陸勤海技者の手でさらに高いレベルの指針を作成した。

*意見交換は不十分のままとなった。

2. 海技者に必要な要素とは？

問いかけ

「日本人海技者」「日本語を話す海技者」「日本の働き方を習得した海技者」？

課題) * 「日本的な外国人」を育成できる可能性は。
(日本の文化に親しんでいる外国人が急増している)
* 「日本的経営」の学術的知見は使えるか。

(意見)

- * 外航の海技の仕事は「英語」が標準になっている。
- * 国内での仕事、例えばタグとのやり取り、港湾での陸上とのやり取り、海運以外の関係者との意思疎通など、日本語が必要な場面は多々ある。
- * 将来は翻訳機が活躍する時代となる。
- * 外国人海技者を日本人と同等の存在に育成することの可否・是非は議論できないままとなっている。

【今後の議論の方向性】

- ①日本人船員増加可否を議論するのは終了としたい。
- ②日本の海技が培ってきた優位性は「**暗黙知**」にあることを明記。
- ③それは「先輩が後輩と育てる」という方法によって醸成されてきた。
- ④**海上**では仕事が機械・AIに置き換わっていく中、暗黙知の伝承の方法を議論する
具体的には：
 - * 幅広い経験を積ませる方法。
 - * 船員教育・研修（日本人＋外国人）の中で、どのようなテーマを教育・研修プログラムに盛り込む必要があるか。
例として「日本的働き方」など。
- ⑤**陸上**での海技者の仕事はますます増えるという認識の下、日本人海技者だけでは足りなくなるという実態を共有する必要がある。即ち、長期計画の中で、外国人海技者を陸上でも活用していくこととなる。
その必須条件として：
 - * 日本語の修得
 - * 日本的働き方の習得を長期にわたって研修するプログラムを開発する。

(参考文献／教材)

新渡戸稲造 『武士道』 岩波書店、1938年
アベグレン J. 『日本の経営』 ダイヤモンド社、1958年
中根千絵 『タテ社会の人間関係』 講談社現代新書、1968年
土井健郎 『甘えの構造』 弘文堂、1971年
松下幸之助 『経営心得張』 PHP 研究所、1974年
小池和男 『日本の雇用システムーその普遍性と強み』 東洋経済新報社、1994年
野中郁次郎、竹内弘高 『知的創造企業』 東洋経済新報社、1996年
ベネディクト R. 『菊と刀ー日本文化の型』 社会思想社、1997年
濱口恵俊 『日本社会とは何かー〈複雑系〉の視点から』 NHK Books、1998年
芹川博通 『いまなぜ東洋の経済倫理かー仏教・儒教・石門心学に聞く』 北樹出版、2007年
小池和男 『海外日本企業の人材形成』 東洋経済新報社、2008年

渋沢栄一『論語と算盤』 守屋淳訳、ちくま書房、2010年

大野耐一『トヨタ生産方式の原点』 日本能率協会マネジメントセンター、2014年

逸見 真他『船長職の諸相』 山縣記念財団、2018年